

定期テストでも100点をとってしまおう

－中間・期末試験の受け方－

開倫塾

塾長 林 明夫

1. 人間は自信をもって臨めるものが一つでもあると、その場所にいることがさほど苦にならないものです。「私はこの分野については他の人に負けない自信がある」というものがあれば、他のことは多少くらい不得意でも居心地の悪さはそれほど感じません。その場所において何もかもすべて自信がないと、本当にいやになって逃げ出したくなります。

一日のうち長い時間を過ごす学校や職場でも同じです。何でもいいのです。一つのことでもいいから、他の人より抜きん出るものがあれば、学校生活や職場での生活は楽しくなります。そのことについて他の人が知っている、いないは関係ありません。誰からも「君はこのことは本当にすばらしいね」との評価をうけなくても自分がそう思えばいいのです。「他より抜きんでるものを一つもつこと」を学校や職場で是非考えましょう。

※もちろん、「他より抜きん出るもの」があっても、それを口に出して自慢する必要はありません。

自分でそう思っているだけの方が奥ゆかしくてよいのです。相手に劣等感をもたせるために、自分の優越しているものを「ことばに出して示す」ようなら、「人格のレベル」が低いあらわれです。「そんな人とだれもいっしょにいたくない」と誰からも相手にされなくなります。十分に気をつけて下さい。

2. 学校の場合、自分自身の自信をつけるのに一番手取り早いのは、テストで100点をとることです。誰が何といおうとテストで100点をとることの「素晴しさ」、「快さ」は学校生活での「自信」に繋がります。一気にその科目が好きになります。「一生忘れない」どころか、100点をとったことがきっかけになって、もう一度100点をとりたいくなるのでさらにその科目を集中して勉強しますから、本当にその科目が好きになります。その結果、高等学校を出たあともその科目を勉強し続けることになり、職業選択にも大いに影響することすら、まれではありません。学校のテストで100点をとることは、「測り知れないよい効果」を生むことになります。

3. 学校の先生も、毎回100点をとっている生徒には余り悪い評価をつけようがありません。高校や大学にすすむ際に先生が書いてくれる内申書も100点をとっている科目はよいに決っています。推せん入学のある高校や、大学には、100点を取る科目が多いほど「学校推せん」で行ける可能性が高まります。「推せん」なら何とあの「入学試験」を受けずに上の学校に入れるのです。「奨学金」をもらう場合だって同じで、100点さえとっていれば、学校の通知票の評価が高まりますから、「日本育英会」をはじめ「地方公共団体」各種「福祉団体」、「会社」の奨学金がもらえます。学校のテストとりわけ定期テストで100点をとることは、このようにとてつもなく大きな意味があります。テストで100点をとることは君達の未来を限りなく開くのです。

「そんなこと言われても今まで中間試験や期末試験では 100 点はおろか 90 点もとったことがない」という人が多いと思われまますので、今から、定期テストで 100 点をとる方法を考えます。この「コツ」さえよくのみこめれば、これからうけるすべての試験でいつも 100 点がとれると確信します。ですから、よく話をきいて下さいね。(ただし、これからのべることは、試験の範囲の限定された「定期試験」で 100 点をとる方法です。受験生のうける「模擬試験」や「実力試験」「入学試験」で 100 点をとる方法とは少しちがいます。大部分は重なりあい同じですがね。)

(1)「テスト範囲を推測すること」がまず大事です。中 2、中 3 生なら、2 学期の中間試験の次のところから、勉強中の教科書の 1 章か 2 章さきまでです。あと何回位授業があるからどのへんまですすみそうかということは、少し考えれば簡単に推測できます。全科目のテスト範囲を予測し、一覧表にまとめ、自分の机の前にはって下さい。その縮小コピーを手帳に入れ、たえずながめて下さい。

(2)「何で勉強するか、つまり主になる教材を 1 冊決定すること」。最もものぞましいのは学校で使う教科書です。何冊も用意することはありません。1 冊で十分です。これで勉強するのだという教材を 1 冊にしぼりこむ。一番よいのは学校の教科書。ただし、理科の不得意な人は、少し厚目の参考書を基本になる教材にすべきです。理科の教科書は余りも「あっさり」書かれすぎていて、よほど観察や実験に積極的に参加し、先生の授業をきちんとノートにとっていないと 100 点は大変です。理科だけは参考書を使うことをおすすめします。

(3)「自分で決めた各教科 1 冊の教材を、テスト範囲の予測一覧表に基き、すみからすみまで完全に一語一句のこさず暗記すること。」

①英語なら「本文」を見ないで書けるまでにすることはもちろん「新出単語」の発音記号までも書けるようにすべきです。

「まとめ」や「練習問題」その解答までも正確に書けるようにする。

②数学は、教科書の説明はもちろん、「例題」「練習問題」は解き方、解答も、そっくり暗記する。問題ができるか、できないかという段階ではありません。テスト範囲につき数学の教科書に出ているすべての問題の解き方と解答をすべて暗記するまでやるべきです。

③国語はテスト範囲につき、教科書の全文をすべて覚えてしまうのが最も有効。できっこないなどとあきらめず、挑戦してみてください。思ったほど難しくないことがわかります。文法や古文など全文暗記し、スラスラ空で言えるようにまでなれば、100 点は必ずとれます。書けそうな漢字は書く練習をすることはもちろんです。

④社会こそ、テスト範囲につき教科書のスミからスミまで一語残さず覚えこみ地図で位置をたしかめ、年号が出てきたら年表を見てその年号の意味まで考え、法律の条文が出たら、おっくうがらずに教科書のうしろや、六法全書でその法律の条文にあたり、声を出して読んでみるだけで、確実に 100 点がとれる最も面白い科目です。

⑤理科の学校の教科書を基本に勉強する人は、「実験・観察ノート」「学校でとったノート」もすみからすみまで覚えこむ必要があります。参考書で勉強する人は、参考書の一語一句まで正確に意味を十分理解した上で覚えこむ。計算は数学と同じですべて問題・解き方・解答の三つを暗記してしまうこと。

(4)おわかりになりましたか。①テスト範囲を予測②教材を決め ③すみからすみまで全部覚えこむ。このような勉強方法は「狭く深く」に徹するもので、定期テストでは絶大の威力を発揮します。11月の声をきいたらすぐにこの方法でテスト勉強をして下さい。必ず100点がとれます。(期末テストは11月に入ったらすぐ準備をすること)

※参考書はわからないところだけ見ることに徹しましょう。辞書代りに使用することをおすすめします。「問題集」は、「狭く深く」に徹した「教科書での勉強」がほぼすんだ段階で「一気に」終すべきです。問題集をやる際大切なことは、できなかった問題番号の上に○印をつけ、くりかえしくりかえし、○印のついた問題のみを解いてみることです。2回目もできなかったら二重丸を、3回目もできなかったら三重丸を、その問題番号の上につけることです。そのたびごとに真剣にとりくんで下さい。試験直前には問題集の丸印の多い問題から解き方を暗記していくこと、これまた100点に限りなく近づきます。

4. 「1冊の教科書を深く深く、一語一句もらさず完全に覚えこむ。」試験の範囲が20～30ページと限定されている中間・期末テストならこのことが可能です。大変でしょうが是非やってみて下さい。これだけのことで未来が開けます。